

6. 水路工事

6-1 現場打開水路

(1) 配筋確認状況



留意事項

- 鉄筋径が黄と青と緑に区分され、標尺を正面から撮影しているので縦と横の配筋のピッチがよく確認できる。

撮影方法

- 鉄筋の径がわかるようにマーキングを行い撮影する。
- 配筋の状況がわかるように撮影する。
- 鉄筋間隔等がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

(2) 打継目処理状況



留意事項

- 打継目の位置と全体状況が確認できる。
- レイタンス除去の作業状況がわかりやすい。
- 撮影に支障のある余分なものは片付けておく。

撮影方法

- 作業状況とともに、打継目がどこに位置するのかわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容を記入する。

6-2 現場打暗渠

(1) 配筋確認状況（底版）



留意事項

- 鉄筋の径が区分できるようにマーキングされている。
- 黄色の鉄筋間隔が確認できるように左に移動し標尺の正面から撮影する。

撮影方法

- 鉄筋の径がわかるようにマーキングを行い撮影する。
- 鉄筋間隔等がわかるように撮影する。
- 配筋の状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

(2) 厚さの測定状況（底版）



留意事項

- 底版上面にあて木をあてているので、実測寸法が確認できる。
- 断面図に測定位置が記入されている。
- 背後の連続性がわかりにくいので正面中央から撮影する。

撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の連続性も確認できるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

6-2 現場打暗渠

(3) 配筋確認状況 (頂版)



留意事項

- 鉄筋の径が確認できるようにマーキングされている。
- 黄色の鉄筋間隔がわかるように左に移動し、標尺の正面から撮影する。
- 同時に縦に標尺をおくと鉄筋の有効高さも確認できる。
- 足場板等を使用し、鉄筋に直接乗らないようにする。

撮影方法

- 鉄筋組立完了時に、鉄筋の有効高さ、鉄筋のかぶり、鉄筋間隔などの配筋状況が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

(4) 高さの測定状況



留意事項

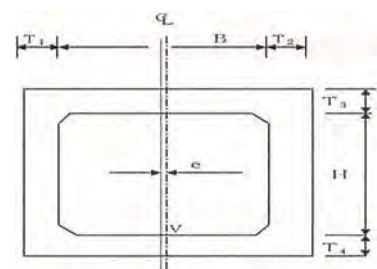
- 上部の実測寸法にあて木をあてているので目盛が確認できる。
- 形状の全体が正面から撮影されており、背後の状況とともにわかりやすい。

撮影方法

- 形状寸法はもちろんのこと、背後の状況も確認できるように撮影する。
- リボンロッドはたるませないように緊張を加えて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。



6-3 鉄筋コンクリート大型フリーム・鉄筋コンクリートL形水路

(1) 掘削断面の出来形確認状況



留意事項

- 黒板の記入内容がはっきり読み取れるように黒板を手前におく。
- 丁張から掘削高さが確認できない。
- 掘削勾配も出来形管理項目ではないが施工の妥当性を確認するため撮影しておくが良い。

撮影方法

- 出来形寸法が正確に確認できるようなカメラアングルで撮影する。
- ピンホールなどを垂直に立て、正確に寸法を示して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

(2) アンダードレーン出来形確認状況



留意事項

- 黒板に必要事項が記入されている。
- スタッフにピンポールをあて、幅の寸法がわかるようにする。
- アンダードレーン幅を示すピンポールをあてる。
- アンダードレーン深さを示すスタッフを立てる。

撮影方法

- 施工状況がわかるように撮影する。
- スケールが判読できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

6-3 鉄筋コンクリート大型フリューム・鉄筋コンクリートL形水路

(3) 基礎碎石の転圧状況



留意事項

- 使用機械がわかる方向から撮影している。
- 黒板を手前に置いているので、記入内容がわかりやすい。

撮影方法

- 施工の連続性が確認できるように撮影する。
- 施工状況・使用機械がわかるよう撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械
- 施工幅・厚さを記入する。

(4) 均しコンクリートの打設状況



留意事項

- 設置されたボックスカルバートが背景にあり、施工の連続性や作業状況がわかるアングルで撮影している。
- 記録写真として黒板を取付ける工夫をする。困難な場合、写真に作業内容がわかる説明を添付する。

撮影方法

- 全体の施工状況と作業内容がわかるように撮影する。
- 施工の連続性が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 施工幅・厚さを記入する。

6-3 鉄筋コンクリート大型フリーム・鉄筋コンクリートL形水路

(5) 大型フリーム布設状況



留意事項

- 吊り込み機械の規格等が確認できない。機械と周辺を含めた撮影もする。

撮影方法

- 据付け施工状況がわかるように撮影する。
- 吊り込み用の使用機械がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- フリームの規格
- 吊り込み用の使用機械名・規格を記入する。

(6) 伸縮継目の施工状況（エラスチックフィラー）



留意事項

- 黒板を手前においてあるので記入内容がわかりやすい。
- 作業内容が確認できるアングルで撮影している。
- 施工の連続性が確認できる。
- 場内を整理しておけばさらにわかりやすい。

撮影方法

- 作業状況がわかるように撮影する。
- 施工の連続性が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 材料の仕様
- 材料の幅・厚みを記入する。

6-3 鉄筋コンクリート大型フリーム・鉄筋コンクリートL形水路 (7) 底版グラウト流出防止モルタル施工状況



留意事項

- 黒板に作業箇所が表示してあるので作業状況がわかりやすい。
- 施工範囲全体がわかりにくい。
- 左が陰になっているので、右にカメラをふるなどの工夫を行い施工範囲を広く撮影する。

撮影方法

- 作業状況がわかるように撮影する。
- 施工範囲全体が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- モルタルの規格
- 水路断面を記入し、作業箇所を表示する。

(8) 底版グラウトの注入確認状況



留意事項

- モルタルの吹出し状況と注入状況が確認できるように撮影する。
- 使用機械を配置し、作業範囲全体が確認できるように水路と平行、又は水路内からのカメラアングルで撮影する。

撮影方法

- 作業内容がわかるように使用機械を配置して撮影する。
- 作業範囲が広い場合は、全体が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名
- モルタルの規格を記入する。

6-3 鉄筋コンクリート大型フリューム・鉄筋コンクリートL形水路

(9) シール材攪拌状況



撮影方法

- 調合する材料名・調合量を表示して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 材料名・調合量（使用量）を記入する。

留意事項

- 調合する材料を背景の良い所において、アップで撮影する。
- 黒板に材料名・調合量が記入されていない。

(10) 継目の清掃・乾燥状況



撮影方法

- 作業内容がわかるように撮影する。
- 施工範囲全体が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 目地幅・目地材を記入する。

留意事項

- 黒板を正面に向ける。
- 作業箇所が日陰部分になっているので、作業状況がわかりにくい。

6-3 鉄筋コンクリート大型フリーム・鉄筋コンクリートL形水路

(1 1) バックアップ材の施工状況



撮影方法

- 施工範囲全体が確認できるように撮影する。
- 施工目的であるバックアップ材の装てんがわかるようにアップでの撮影もする。

留意事項

- 施工箇所以外が大きく写らないように前に移動して施工箇所を撮影する。
- △バックアップ材の装てんがわかるようにアップでの撮影もする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 材料名を記入する。

(1 2) シール材の注入状況



撮影方法

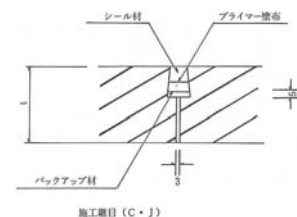
- 施工の連続性が確認できるように撮影する。
- 施工目的であるシール材の注入がわかるようにアップでの撮影もする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 材料名を記入する。

留意事項

- 施工の連続性が確認できるカメラアングルである。
- △シール材の注入がわかるようにアップでの撮影もする。



6-3 鉄筋コンクリート大型フリーム・鉄筋コンクリートL形水路

(13) サイドドレーンの出来形状況



撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の状況も確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 使用材料
- 設計寸法・実測寸法
- 水路断面略図を記入し、測定箇所を表示する。

留意事項

- スタッフの色とピンポールの色が同色で実測値がはっきり読みとれない。
- 人・黒板の位置は適切であるが、近接して撮影し、字を読めるようにする。

(14) 埋戻し状況



撮影方法

- 使用機械が入って、施工状況がわかるように撮影する。
- なるべく施工位置の前後が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- まき出し厚・まき出し層数を記入する。

留意事項

- 「2」を表示し、2回目ということがわかりやすい。
- 撮影に余分な資材を片付けておくこと。
- 撮影部位が全体のどこに位置するのかわかるように水路断面方向から撮影する。